

概要

- 琴平町は、県内有数の米麦種子生産地域であり、香川県オリジナル水稻品種である「おいでまい」を栽培しているが、種子歩留まりの低下が続いており、県内一般生産者への種子供給が不安定となっている。
- このため中讃農業改良普及センターでは、歩留まり低下の原因と考えられる「おいでまい」の過剰な分けつとそれによる籾数過多を抑えるため、栽培指導や講習会を通じた栽培管理の見直し指導を行った。
- その結果、琴平町産「おいでまい」種子の生産実績は、令和4年産では44.7%だった歩留まりが令和5年産では77.2%、令和6年産では73.3%と改善させることができた。

具体的な成果

「おいでまい」種子の歩留まり向上

- 現地巡回を通じた各採種ほの生育状況・管理状況、併せて過去の展示ほの調査データを基に分析し、原因の一つが不十分な中干しや生育段階に対応していない追肥による分けつ過剰と籾数過多であることを確認
- 現地指導や講習会を通して、過剰な分けつ抑制とそれによる籾数の適正化を意識した栽培管理の指導を実施
- 琴平町産「おいでまい」種子の歩留まりを改善
(R4産 → R5産 → R6産)
44.7% → 77.2% → 73.3%



栽培管理講習会の様子



現地講習会の様子

年産	調整前の 乾物収量 (kg/10a)	調整 籾収量※ (kg/10a)	歩留まり (%)
令和6年	717	526	73.3
令和5年	720	556	77.2
令和4年	751	336	44.7

※選別には篩目2.2mmを使用

普及指導員の活動

令和5年度

- 栽培技術の実証ほを設置し、展示ほを設置し、「おいでまい」の旺盛な分けつを抑えるため、基肥の減肥や生育段階にあわせた追肥による施肥体系の見直しを実施
- 香川県種子協会と連携しての採種ほの現地巡回、過去の展示ほの調査データを基にした分析を実施

令和6年度

- 各ほ場での生育状況にあわせた肥培管理・水管理の実施を指導するため、栽培管理講習会や現地講習会を実施
- 生産者同伴での定期的な巡回指導を実施

普及指導員だからできたこと

- ・ 定期的な巡回と各生産者ごとの個別指導を行うことで、各ほ場・生産者にあわせた栽培管理指導を行うことができた。
- ・ 展示ほの設置や各ほ場での定点調査を実施したことで、生産者に指導してきた基肥量の見直しや追肥時期の検討といった栽培管理の見直しを裏付ける結果が得られた。

香川県オリジナル水稲品種の種子安定生産に向けた取組み

活動期間：令和5年度～継続中

1. 取組の背景

香川県オリジナル水稲品種である「おいでまい」は、温暖化による夏季の高温による県産水稲の品質低下を解決するために高温耐性と良食味を兼ね備えた品種として開発され、県内全域に普及、栽培されているが、他都道府県では栽培されていない。このため、県内一般生産者が栽培に使用する種子は、県内の種子生産者によって生産したものが供給されている。中讃地域は水稲の種子生産が盛んな地域で、中でも琴平町は県内で有数の種子生産地域となっており、種子生産者で構成される琴平種子生産者組合（13名）が種子生産に取り組んでいる。

しかし、近年「おいでまい」の種子生産において、種子歩留まりの低下が続いており、県内一般生産者への種子供給が不安定となっている。これは「おいでまい」開発時に想定されていた以上に夏季が異常高温となっており、これらの気候変動に栽培技術が対応できていないことや、分けつが旺盛な「おいでまい」の性質に起因する籾数過多等の要因が原因と考えられる。種子歩留まりの低下は種子生産者の収益減に直結し、栽培意欲を低下させるだけでなく、県内の「おいでまい」生産全体に影響する。

そこで、歩留まり低下に対応した栽培管理の改善による種子籾の安定生産を図ることで、収量・品質の向上による良質な「おいでまい」種子の安定供給に向けて取り組んだ。

2. 活動内容（詳細）

（1）「おいでまい」種子生産の現状確認と課題把握

現場での現状把握と種子生産の改善に向けた検討を行うため、香川県種子協会と連携して、「おいでまい」種子の主要な生産を担っている琴平種子生産者組合構成員の採種ほの生育状況等を現地巡回し、併せて過去の展示ほの調査データを基に分析を行った。

（2）採種ほの審査・現地指導

各生育段階で実施される採種ほの審査を通じて、各採種ほの生育状況やほ場管理状況を随時把握するとともに、過剰な分けつを抑えて、適正な籾数で健全な種子を生産するため、適切な時期での中干しの実施や追肥時期に関する栽培管理の現地指導や講習会を行った。



栽培管理講習会の様子

(3) 種子品質向上に向けた施肥体系の検討
籾数過多の要因が、穂肥施用時期と施用量にあると考えられることから、展示ほを設け、施肥体系の見直しについて検討した。併せて、基肥の減肥や葉色・生育状況に応じた追肥、中干しの実施を現地講習会を通して直接指導を行った。



現地講習会の様子

3. 具体的な成果（詳細）

「おいでまい」種子の歩留まり向上

不十分な中干しや生育段階に対応していない追肥等によって分けつが過剰となり、その結果籾数が過多となり、歩留まり低下の要因となっていることが確認できた。

このため、基肥の減肥や穂肥を適期・適量で行う肥培管理、十分な中干しを行う水管理の実施等の栽培管理の見直しを普及指導した結果、琴平町産「おいでまい」種子の生産実績は、令和4年産では44.7%だった歩留まりが令和5年産では77.2%、令和6年産では73.3%と改善させることができた。

4. 農家等からの評価・コメント（琴平町 種子生産者T氏）

「おいでまい」種子の歩留まりの結果が悪く、種子の生産をやめようかという声も生産者の中からあり、種子歩留まりは悩みの種になっていた。

分けつや籾数を意識して肥培管理や水管理をすることで「おいでまい」種子の歩留まりが良くなる兆しが出てきたことから、この流れを止めることなく産地全体で「おいでまい」種子生産に一層取り組んでいきたい。

5. 普及指導員のコメント（中讃農業改良普及センター 主任 香西俊哉）

「おいでまい」種子の歩留まりの低下は、生産者の収益に直結していることから、産地において大きな課題となっていた。

水稻の生育段階・生育状況にあわせた栽培管理を通して、高温による影響を最小限にしつつ、過剰な分けつを抑えて籾数を適正值に近づけることで、種子の歩留まり向上に繋げることができたことから、引き続き種子生産者に対して適正籾数に向けた栽培管理の普及に取り組んでいく。

6. 現状・今後の展開等

種子歩留まり改善の方向性を示すことができたものの、歩留まり率は約7割に留まっている。加えて、近年の異常高温に十分に対応できる指導までには至っていない。このため、引き続き現地指導や講習会の実施を通して、「おいでまい」の品種特性を考慮した過剰分けつ抑制と適正な籾数管理を図るため、産地を支援していきたい。